

令和6年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

(1) 東京都立葛飾商業高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）

(2) 事務局の構成

副校長、経営企画室長、総務厚生部主任＝事務局長、総務厚生部員1名 計4名

(3) 内部委員の構成

校長、副校長、経営企画室長、教務部主任、生活指導部主任、進路指導部主任、
総務厚生部主任、各学年主任、商業科主任 計11名

(4) 協議委員の構成

葛飾区立常盤中学校長・南新宿児童館長・同窓会会長・都産業教育振興会副会長・
葛飾区新宿地区民生児童委員会会長・保護司・民生児童委員・主任児童委員・
柴又神明会代表・地域商店会代表・亀有警察署・金町消防署・PTA会長
計13名

2 令和6年度学校運営連絡協議会の概要

(1) 学校運営連絡協議会の開催日時、出席者、内容

第1回 令和6年6月14日（金）午後3時30分～午後5時10分

会議室、内部委員10名、協議委員11名

① 協議委員委嘱

② 委員紹介

③ 学校運営連絡協議会の今後の取り組み

④ 本校の現状と本年度の取組目標について（経営企画室・教務部・生活指導部・進路指導部・総務厚生部・各学年・商業科）

⑤ 防災教育の推進について

⑥ 意見交換（本校へ意見と質問、要望等）

第2回 令和6年11月8日（金）午後3時30分～午後5時10分

会議室、内部委員11名、協議委員11名

① 本校の現状と取り組みについて報告（経営企画室・教務部・生活指導部・進路指導部・総務厚生部・各学年・商業科）

② 防災教育の推進について

③ 学校評価アンケートの評価項目と実施方法について

④ 意見交換（本校へ意見と質問、要望等）

第3回 令和7年2月7日（金）午後3時30分～午後5時10分

会議室、内部委員11名、協議委員11名

① 本年度の総括と課題等報告（経営企画室・教務部・生活指導部・進路指導部・総務厚生部・各学年・商業科）

② 防災教育の取組と総括、次年度の課題について

③ 意見交換（本校へ意見と質問、要望等）

(2) 評価委員会は別途設けず、協議会の中で検討・報告している。

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

(1) 学校評価の観点

「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。

(2) 実施方法

アンケート用紙またはFormsに入力する形式で実施

(3) アンケート調査の実施時期・対象・規模

- ・12月 全校生徒 565人(回収534人 94.5%)
- ・12月 保護者 565人(回収474人 83.9%)
- ・12月 教職員 47人(回収45人 95.7%)
- ・12月 協議委員 13人(回収8人 61.5%)

(4) 主な評価項目

- ・学校生活 入学後の満足度、学校の雰囲気
- ・学習指導 検定取得指導、チームティーチング、補習の充実度
- ・生活指導 進路に必要な生活指導、遅刻・頭髪指導、社会のルール
- ・進路指導 進路情報の提供、個別面談等の指導
- ・特別活動 学校行事・部活動
- ・教員の態度 体罰や暴言をなくすための取組
- ・その他 施設・設備、読書活動、放課後の指導対応、自宅での学習時間

(5) 評価結果の概要及び分析・考察

① アンケートの回収状況

	R 3	R 4	昨年度 (R 5)	本年度 (R 6)
生 徒	98.7%	89.9%	97.5%	94.5%
保護者	50.1%	37.5%	81.9%	83.9%

本年度は昨年度と比べると生徒の回収率が減少したが、保護者の回収率が増加した。80%以上の回収率で本アンケートの精度も高まり、より生徒・保護者の意見が反映されたアンケートとなった。次年度も回収率を高め、より生徒の高いアンケートとなるよう取り組んでいく。

② 学校満足度

【設 問】生 徒：「葛商に入学してよかった」

保護者：「葛商に入学させてよかった」

教職員：「生徒は明るく楽しい学校生活を送っている」

【回 答】

	R 3	R 4	昨年度 (R 5)	本年度 (R 6)
生 徒	69.9%	78.4%	82.6%	85.0%
保護者	69.1%	81.8%	81.8%	81.6%
教職員	77.6%	84.5%	85.0%	93.3%

保護者は昨年度と変化なく推移したが、生徒は年々増加している。生徒保護者共に8割以上の肯定的な回答をいただいた。この結果を活かし、さらに満足度を高められるよう、職員が一丸となって、次年度も学校運営に取り組む。

③ 学習への取り組み

【設 問】生 徒：「自宅での学習時間（予習・復習）はどれくらいか」

【1時間未満と回答した生徒（全体）】

	R 3	R 4	昨年度 (R 5)	本年度 (R 6)
生 徒	78.0%	86.0%	86.8%	88.0%

【1時間未満と回答した生徒（学年別）】

	R 3	R 4	昨年度 (R 5)	本年度 (R 6)
1 学年	71.6%	81.9%	85.9%	88.4%
2 学年	79.0%	90.4%	89.7%	88.1%
3 学年	82.2%	86.6%	84.7%	87.3%

「1時間未満と回答した生徒」の数値が増加しているということは、生徒の家庭学習時間が減少傾向にあるということである。家庭学習の定着が大きな課題であり、家庭学習時間の増加のため、スタディサプリや一人1台端末の活用など、生徒が能

動的に学習に取り組む環境整備を更に進めることが大切である。また、資格取得のための学習も自宅で課題に取り組めるような教材作成を行う。

④ 学習指導（指導方法について）

【設 問】「学習指導では内容、方法に工夫がなされているか」

【回 答（全体）】

	R 4	昨年度（R 5）	本年度（R 6）
生 徒	77.9%	79.9%	82.2%
保護者	64.8%	66.7%	62.4%
教職員	93.4%	95.0%	91.1%

【回 答（生徒・学年別）】

	R 4	昨年度（R 5）	本年度（R 6）
1 学年	80.7%	89.2%	82.1%
2 学年	74.4%	81.2%	96.8%
3 学年	77.6%	64.2%	93.6%

生徒の回答は年々増加しているが、保護者の回答が減少している。大半の生徒が授業の工夫に対しての教員の取り組みを理解しているが、保護者への取り組みの周知に課題がある。この理解度を高める為にも、授業公開の実施やICT機器の活用など、生徒の興味関心を引き出す授業を今後も取り組んでいく。また、前述の家庭学習の徹底や教材・課題の工夫など、生徒が自宅で勉強する雰囲気を作ることが大切である。

⑤ 学習指導（資格取得について）

【設 問】「資格取得についての指導体制が充実している」

【回 答（全体）】

	R 4	昨年度（R 5）	本年度（R 6）
生 徒	93.6%	91.9%	94.4%
保護者	89.8%	89.8%	87.6%
教職員	80.0%	72.5%	80.0%

【回 答（生徒・学年別）】

	R 4	昨年度（R 5）	本年度（R 6）
1 学年	93.6%	96.6%	95.3%
2 学年	89.8%	92.6%	93.0%
3 学年	97.3%	83.9%	94.9%

生徒の多数が肯定的な回答をしているが、保護者の回答が減少している。資格取得の指導体制について保護者への周知や生徒の補習参加等の協力を依頼することが課題である。また、生徒の肯定的な回答が多いが、検定結果に結びついていない。今後は資格取得による結果に結びつく取り組みをしていく。

⑥ 生活指導

【設 問】「基本的な生活習慣を身につけられるよう、適切な指導をしている」

【回 答（全体）】

	R 4	昨年度（R 5）	本年度（R 6）
生 徒	84.8%	81.7%	83.3%
保護者	71.5%	66.2%	65.6%
教職員	77.8%	92.5%	82.2%

【回 答（生徒・学年別）】

	R 4	昨年度（R 5）	本年度（R 6）
1 学年	84.8%	90.8%	84.7%
2 学年	71.5%	83.4%	81.1%
3 学年	86.7%	65.7%	84.2%

生徒の回答では、3学年は増加しているが、1・2学年において減少している。進路指導と生活指導が緊密に連携し、進路実現のために日々の生活指導を行っていることを生徒に伝えるとともに、保護者にも協力をいただきながら基本的な生活習慣の確立に向けた指導を実践していく。また、入学してくる中学生、中学校へ本校の生活指導の理解にも努める。

⑦ 進路指導

【設 問】「進路指導・情報提供が充実している」

【回 答（全体）】

	R 4	昨年度（R 5）	本年度（R 6）
生 徒	89.9%	89.3%	90.6%
保護者	79.3%	78.1%	74.7%
教職員	88.9%	80.0%	71.1%

【回 答（生徒・学年別）】

	R 4	昨年度（R 5）	本年度（R 6）
1 学年	92.4%	94.6%	90.5%
2 学年	83.9%	91.4%	92.5%
3 学年	92.0%	78.8%	88.6%

生徒の回答については大幅な変化はないが、保護者・教職員が減少している。また、ほとんどの生徒がこの項目について、肯定的な回答をしているが、3学年の回答が大幅に増加している。生徒個々の進路希望実現に向けて、進路希望調査を的確な時期に行い、生徒個々の希望に叶う進路指導の構築が必要である。商業高校の生命線でもある進路指導を更に充実させるために、教職員が連携して全教職員で進路指導にあたる仕組みを構築していく。

⑧ いじめ、体罰

【設 問】「いじめや体罰等について相談しやすい学校である」

【回 答（全体）】

	R 4	昨年度（R 5）	本年度（R 6）
生 徒	76.8%	70.6%	76.2%
保護者	47.7%	47.2%	50.2%
教職員	86.6%	80.0%	86.7%

【回 答（生徒・学年別）】

	R 4	昨年度（R 5）	本年度（R 6）
1 学年	82.4%	79.5%	69.4%
2 学年	70.1%	69.8%	81.7%
3 学年	76.6%	58.4%	77.8%

すべての回答について、一昨年度と同等の数値となったが、学年別で見ると、1学年が昨年度より大きく減少し、2学年・3学年が昨年度より大幅に増加している。特別支援委員会を中心に、スクールカウンセラーとの連携をより強固なものにするとともに、教職員の校内研修を充実させ、いじめや体罰の未然防止に努める。また、外部機関や関係機関との連携も積極的に行い、相談先や連携先の情報提供も生徒・保護者に積極的に行うことで、安心・安全に通える学校づくりを行っていく。

⑨ 地域連携

【設 問】「地域と連携した教育活動を推進している」

【回 答（全体）】

	R 4	昨年度（R 5）	本年度（R 6）
生 徒	80.5%	79.1%	85.8%
保護者	65.3%	66.4%	76.4%
教職員	77.8%	80.0%	88.9%

【回 答（生徒・学年別）】

	R 4	昨年度（R 5）	本年度（R 6）
1 学年	84.7%	88.8%	84.7%
2 学年	78.9%	78.3%	88.7%
3 学年	77.7%	65.7%	83.5%

すべての回答について、昨年度より増加している。本年度は地域行事の運営依頼やボランティアの依頼が多くあり、生徒を派遣することができた。また、「専門高校における民間OB等活用事業指定校」や「『社会の人材を活用した教育』を実現するための授業支援事業」による民間企業、大学教授、商工会議所、葛飾区、キャリアカウンセラーや税理士等の専門家などのサポートをいただき、授業支援や進路支援をいただいた。次年度も外部講師を活用した授業支援や進路支援を積極的に行い、地域と連携した教育活動を推進していく。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）

（1）学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・地域からの連携や要望があり、地域ボランティア活動の取組内容が把握できた。
- ・本年度より「葛商通信」を作成し、ホームページに掲載した内容を新聞の形式で周知することができた。併せて、防災訓練、体育祭、文化祭等学校行事の取り組みを協議委員にお伝えすることができた。
- ・警察から、高校生犯罪の様々な情報提供をいただいた。
- ・消防署から、防災訓練の実施方法や実施内容についての情報提供・助言をいただいた。
- ・本校の教育活動について、保護者の立場からの助言をいただいた。
- ・本校の生徒募集広報活動について助言アドバイスをいただいた。

（2）学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ・地域貢献や地域連携のさらなる活性化について（ボランティアの依頼や学校の対応等）。
- ・地域へ就職する生徒数の増加について（進路指導方針等）。
- ・自転車の安全教育への取り組み（ヘルメット着用の取り組み）。
- ・「専門高校における民間OB等活用事業指定校」や「『社会の人材を活用した教育』を実現するための授業支援事業」の活用について（地域連携の強化）。
- ・本校の生徒募集広報活動について（活性化について）。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項

(1) 教育課程

- ・ グランドデザインに基づいた新教育課程の適正実施と検証
- ・ 観点別評価の適正実施と検証

(2) 学習指導

- ・ 一人1台端末や Teams を活用した授業展開の推進
- ・ 家庭学習の定着と課題配信等の推進
- ・ 全教科において主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を実施
- ・ 教員の授業力向上と研修の効果的な活用
- ・ 実学のビジネス教育の更なる推進と検定資格取得の両立
- ・ 校内寺子屋を活用した基礎学力の向上
- ・ 地域や民間企業等と連携した学習活動の充実

(3) 進路指導

- ・ 進路希望を踏まえた選択科目の履修指導等の充実と検証
- ・ インターンシップの組織的な推進体制の確立
- ・ 「総合的な探究の時間」および「ホームルーム」を活用した計画的な進路学習の充実
- ・ 地域や民間企業等と連携した進路活動の充実

(4) 生活指導

- ・ 生徒指導方法の検証をし、生活指導を全教員で取り組む指導体制の維持
- ・ 基本的な生活習慣を身につけられる指導の徹底と保護者との連携
- ・ 他者理解を深めるための人権教育の推進
- ・ いじめの未然防止および早期発見・早期対応への体制構築
- ・ SNSトラブルの未然防止および生徒への定期的なセーフティ教室の実施
- ・ 自転車通学の安全指導と安全対策の徹底、自転車ヘルメット着用の指導強化
- ・ きめ細かな、身だしなみ指導や遅刻指導の徹底

(5) 特別活動

- ・ 部活動の加入率向上と大会成績の向上
- ・ 部活動ガイドラインに沿った部活動の取り組みを強化
- ・ 地域貢献活動のさらなる活性化
- ・ 防災教育の充実と推進、生徒が中心となった防災活動の推進

(6) 健康・安全

- ・ スクールカウンセラーおよび外部機関との連携による生徒支援体制の構築
- ・ 教員の特別支援に対するスキルアップと生徒情報の共有化、個に応じた指導の実施
- ・ デジタル連絡ツール「スクリレ」のさらなる活用
- ・ 健康に関する個人情報の共有化および適切な対応

(7) 広報・募集活動

- ・ 学校ホームページや葛商通信の更なる充実
- ・ 中学校への説明会・出前授業の積極的な取り組み
- ・ 学校説明会・体験入学等の内容充実
- ・ 中学校や学習塾へのPR訪問の充実

6 『学校が良くなった』と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 13人(回答13人)

(2) 『学校が良くなったと思いますか』の質問に対する協議委員の回答

質問内容	そう思う	ややそう 思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	そう 思わない	分からな い
本年度	10	2	1	0	0	0
前年度	8	3	2	0	0	0

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

- 協議委員の職員会議及び企画調整会議への参加の機会はなかった。今後も本校教育活動の理解を一層深めるために、実施を継続して検討する。

8 その他

- 今年度も対面形式にて3回とも実施し、数多くの忌憚ないご意見をいただいた。本年度より「専門高校における民間OB等活用事業指定校」や「『社会の人材を活用した教育』を実現するための授業支援事業」の指定校をいただき、地域や外部人材のご協力・ご支援をいただきながら教育活動を行ってきた。その授業支援や進路支援についても数多くのご意見や感想、アドバイスもいただいた。
- 学校評価アンケートの分析においては、生徒や保護者の生の声を協議委員にお伝えでき、本校の現状と課題、課題を解決するための方策についてご助言やアドバイスをいただくことができた。
- 地域と連携した防災教育についてもご助言をいただき、次年度に向けて生徒が中心となった防災活動についても協議委員との共有をすることができた。
- 本校の生徒募集広報活動についてもご助言をいただいた。ホームページ等の媒体を活用して、学校の様子について知っていただく機会を増やす。
- 学校評価アンケートの回収率を本年度以上とし、回収率を高めることでより精度の高いアンケートとする。